



緑の斜面

令和7年03月31日発行

No. 085

木のぬくもりのある昇降口、げた箱も地域材で(南足柄市立向田小学校)



CONTENTS

森のニュース

1 地域の木でベンチづくり

～三浦半島グリーンカーボン木材活用促進事業～

 1

2 森林調査を効率化する森林DX(前編)

～点群データを活用しよう～

 3

森林環境
譲与税の取組

秦野市「木のある暮らしづくり」

～生涯を通した木とのふれあい～

 5

わが市わが町

海老名市

～森林環境体験授業～

 7

森林づくり活動
グループの広場

湘南二宮・ふるさと炭焼き会

～木炭作り活動を通して葛川の水質浄化と荒廃した里山を整備する～

 8

事務局便り

 10

森のニュース 1 地域の木でベンチづくり 三浦半島グリーンカーボン木材活用促進事業 ～地域材の活用～

<はじめに>

神奈川県南東部に位置する横須賀三浦地域は、横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町の4市1町で構成され、相模湾と東京湾に囲まれた三浦半島にあります。三浦半島は標高の低い丘陵や台地、切れ込んだ無数の谷戸といった地形からなり、その斜面部が森林として残っています。森林斜面直下の平坦部には宅地が広がり、森林と人家が近接した箇所が多くなっています。

三浦半島は、森林面積の約85%が広葉樹で大部分が薪炭林でしたが、昭和30年代の燃料革命、化学肥料使用の拡大等により、利用されずに大径木化しています。さらに、令和2年度にナラ枯れ被害が急増したことも相まって、人家近くの倒木の恐れがある「危険木」が地域住民の懸念となっています。

そのため、一部の市町では、令和元年度から開始された森林環境譲与税を活用し、危険木伐採への補助など森林整備が進められています。その他、緑地整備や治山事業等でも、多くの木が伐採されていますが、用材としての利用はごく僅かで、殆どは林内に残置するか、チップ等に再資源化できる処分場へ持ち込まれています。

そのような中、葉山町を拠点に活動する一般社団法人葉山の森保全センター（通称HFC、以下、葉山の森保全センター）において、葉山町で伐採した木を、同町内でベンチに加工し、三浦半島で使うという「地

域の木を、地域で使う取組」（三浦半島グリーンカーボン木材活用促進事業～地域材の活用～）が当センター支援の下、行われましたので、ご報告します。

<三浦半島グリーンカーボン木材活用促進事業～地域材の活用～について>

葉山の森保全センターは、葉山の森を守りたいという気持ちを持つ地元有志などで令和3年に設立され、近年、横須賀三浦地域の森林整備の担い手として活躍されています。その代表理事を務める藤本嶺氏は葉山町の大工さんです。自社で製材機（ウッドマイザー LT20）を所有し、



中央：HFC 代表理事 藤本嶺氏
右：HFC アシスタント 中山貴子氏
左：木景家具製作所（HFC 協力）
奥島宏昌氏



製材状況

（ウッドマイザー LT20、ミズキ座面）

丸太から製材した材も使って、釘などの金物を使わない「木組み」という日本伝統構法による家づくりをされています。

本取組は、森林整備から製品化まで一貫して携わることができる葉山の森保全センターの強みを生かして、葉山町の森林整備により発生した伐採材を木製品に生まれ変わらせて、再び同じ地域の中で利用するという地域内での資源循環の試みとして行いました。

木製ベンチとして使用した材は、葉山町上山口において危険木として伐採されたミズキとケヤキ、葉山町一色のスギの間伐材です。伐採から製材までの工程は、葉山町内で行いました。乾燥は、自然乾燥では年度内完成に間に合わない為、湯河原町にある（株）空巧舎のバイオ乾燥機を使って乾燥させ、再び運搬して葉山町でベンチに加工しました。

ベンチの寄贈先は、多くの方に利用される場所として、三浦半島の市町の方々にご協力いただき、葉山町役場、葉山町立南郷中学校、鎌倉市中央図書館の3箇所としました。設



PR プレート



ミズキ座面のベンチ全景

置場所を事前に採寸し、形状の異なる3基のベンチを製作。ベンチの構造は全て釘などの金物を使わない「木組み」です。また、製作経緯のわかるPRプレートを付けました。

葉山町役場と葉山町立南郷中学校に寄贈したベンチの座面はミズキで、脚はケヤキです。座面は樹皮に近い部分が残った耳付き一枚板で、木目が見え、木の良さを感じるデザイン。座面に触れると、しっとりしているという感じを受けるほど、滑



葉山町役場



葉山町立南郷中学校



ベンチ裏面（四方転びの脚）

らかな手触りです。

脚はケヤキの硬く耐久性がある特徴を生かし、細くスッキリとした印象に。脚の取り付けは、お寺の鐘楼等にも使われる「四方転び」という脚が2方向に傾いている形とし、非常に安定した構造となっています。

鎌倉市中央図書館に寄贈したベンチは、児童書コーナーに設置する為、子供用サイズとし、角を取った柔らかい印象のデザインとなっています。座面はスギ、脚はケヤキです。座った方が足を座面下に入れやすいよう、ベンチの脚を結ぶ貫を片側のみとするなど、細部まで考えられた構造です。

寄贈先の方からは、葉山の木が伐られて、葉山でベンチに生まれ変わる、そんなベンチを使うことにより、地域の森林を感じることができて、とても良いとの声をいただきま



鎌倉市中央図書館



ケヤキを削り脚に加工

した。

<おわりに>

持続可能な森林整備には、未利用となっている伐採木に付加価値を生み出し、その利益を伐採等の費用に還元することが必要です。地域の木を伐って、加工して、使うといった地域内での資源循環が進めば、地域の森林整備が加速するとともに、森林の若返りによる二酸化炭素吸収量の増加にもつながります。

本取組では、乾燥を湯河原町で行いましたが、地域内における土場や乾燥機の整備等を進めることも、地域材の利用推進と共に重要であると感じました。地域内の資源循環が一層進むことを目指して、引き続き支援等に取り組んでいきたいと思えます。(神奈川県横須賀三浦地域県政総合センター農政部地域農政推進課 主査 渡口響子)



スギ座面のベンチ全景

森のニュース 2

森林調査を効率化する森林DX（前編） ～点群データを活用しよう～



タイトル画像 ドローン (DJI mini4k) 撮影画像から作成した三次元点群

○はじめに

森林DX、林業DX、スマート林業…昨今は、ICTや先進技術を駆使して、森林・林業分野のデジタル化や効率化を図っていくことを指す用語が溢れています。新しいものには手を出しづらい、小難しくて取っ付きづらい、という印象があるかもしれませんが、要は、既存の作業を効率化しよう、というものです。

ここでは、私達県央地域県政総合センター森林保全課が林業普及指導業務を通じて色々な技術を試してきた中でも、特に手軽で扱いやすい、森林DXの入り口の一つにできそうなものを紹介します。

○三次元点群と3Dモデル

いきなり難しい言葉から始まった…ように見えますが、大丈夫です。もちろん、非常に高度でとても専門的な使い方もあるのですが、今回は手軽なところだけつまんでいきます。

三次元点群とは、地形の凹凸や、立木や工作物等の地物の位置や形状を、縦、横、高さの情報を持った細かい点の集合で表したデータです。3Dモデル(図1)は、三次元点群の表面に、写真を張り付けて、表面の細かな形や色を見やすくしたものです。地形、地物を立体的に再現していて、画面上で回転させたり、斜長や斜面積を計測(図2)したりできます。



図1 表題画像の三次元点群に写真を張り付けて生成した3Dモデル。スギ林と植栽地の下側に道が入っています。



図2 植栽地が正面になるよう回転して、シカ柵延長と、植栽地の斜面積を測っています。

画面上で好きに回転、視点の移動をできることのメリットはとても大きいです。現地で実際に見ているかのように、様々な角度から現地状況を確認できるので、上司等への状況説明や、地権者等への施業提案の際、イメージの共有が容易にできます。

従来、三次元点群の作成は、主に専門の業者に業務委託してきました。今でも、広域的なデータや、高精度なデータはその通りなのですが、実は、「現地調査の中で簡単に取得して、ちょっと使う」だけであれば、専門的な知識が少なくても、意外と手軽にできてしまいます。次の項で紹介します。

○カメラドローンの活用

2枚の写真を並べて、立体視をした経験はあるでしょうか。沢山の写真で一度に立体視するようなイメージで、三次元点群と3Dモデルを作成する技術を、SfMといいます。

当課では、小型のカメラドローンと、オープンソースのSfMソフト※1を使用しています。ドローンのカメラを

真下に向けて調査範囲を網羅するように撮影し、撮った画像をまとめてソフトで自動処理するだけで、三次元点群、3Dモデルに加えて、水平面積の計測に便利なオルソ画像(図3)※2や、GIS上で等高線や断面図等の作成に使えるDSM※3等のデータがあつという間に完成します。

ドローンで撮影した画像を使用するため、空から見える部分しかデータを作成できないという弱点はあるのですが、撮影さえできれば、崩壊地や急峻な崖地等の立ち入るのが危険な箇所(図4)でも、安全かつ迅速に、そして簡単に調査ができます。森林保険の手続きや、災害規模の把握、施業範囲の平面図作成等に必要な資料をまとめて作成でき、野帳起こしや作図の手間もなく、大幅に作業を簡素化できます。また、高価なレーザドローンを必要とせず、比較的安価なカメラドローンで実施可能です。

○森林用の地上レーザ計測機器の活用

ドローンでは撮影できない、直径や樹高等の立木情報、林内の小崩壊や微地形等の取得には、森林用の地上レーザ計測機器(図5)が便利です。

通常、立木であれば林尺や測高棒を、微地形であればポールやテープを用いて調査しますが、地上レーザ計測機器を用いて計測し、機器付属の

ソフトで解析すると、地形と地物を合わせた林分全体がそのまま三次元点群に、立木情報がExcelとGISのファイル(図6)に、地形情報はDEM※4にそれぞれ出力されます。また、機器によっては、計測地点の全天球画像(図7)※5を同時に取得します。付属ソフトでは標準地の作成、選木や材積計算も行えるため、森林施業の事前調査はこれで完了できます。専用の機器を使うために費用が掛かること、下層植生が密な箇所では使えないこと等難点もありますが、使える箇所では、人手を掛けずに、かつ高精度に、立木と地形をまとめて調査できます。



図3 オルソ画像で水平面積計測



図4 崩壊箇所を空から調査



図5 地上レーザ計測機器「OWL」

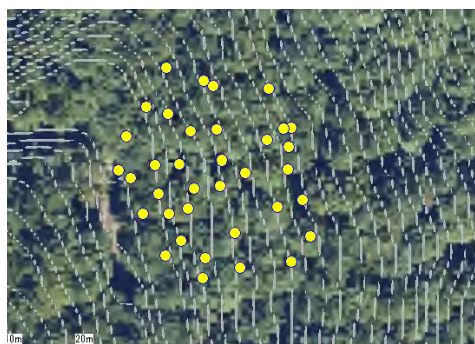


図6 スギ林の立木情報 GIS データ
(シェープファイル)

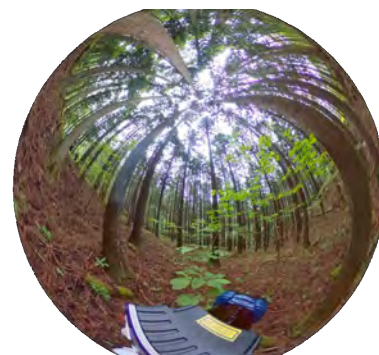


図7 スギ林分の全天球画像

○まとめ

今回は、連載2回予定の前編ということで、森林DXの入口の中でも、現地調査を省力化する機器、特に三次元点群に関わるものを紹介しました。7月発行の、緑の斜面第86号に掲載予定の後編では、スマートフォンがあれば誰でも気軽に使える地図アプリ等について紹介します。(神奈川県県央地域県政総合センター 森林保全課)

※1 今回は、WebODMを使用。インストーラの入手方法や、ソフトの使い方は神奈川県環境農政局緑政部森林再生課林業振興グループ作成の研修資料 (https://www.pref.kanagawa.jp/documents/95310/webodm-manual_ver1.pdf) を参照。

※2 画面のどの位置も、真上から見たように傾きがなく、大きさや位置が補正された画像

※3 Digital Surface Model 建物や立木等の地物を含めた標高の値で作られた三次元データ

※4 Digital Elevation Model 地物を除去した、地表面の標高の値で作られた三次元データ

※5 複数のレンズで高角撮影した画像を結合し、前後左右上下、全方向を見渡せる画像



秦野市の紹介

秦野市は、神奈川県の中央西部に位置し、東京から約60km、横浜からは約37kmの距離にある「水とみどり」豊かな都市です。北方には丹沢山塊が、南方には渋沢丘陵が広がり、県内唯一の盆地の地下は“天然の水がめ”となっていて、秦野盆地湧水群は環境省「名水百選」に選出され、この名水によるボトルドウォーターは、環境省「名水百選選抜総選挙」の「おいしさがすばらしい名水部門」で全国第1位を受賞しています。



森林の状況

秦野市の総面積：10,376 ha
 森林面積：5,426 ha（約52%）
 うち樹種別：ヒノキ：24%、スギ：21%、広葉樹：52%

森林・里山の現状と課題

かつては「葉たばこ」の産地だった本市では、里山のコナラやクヌギなどの落葉は良質な肥料として、伐採した木はたばこの葉を乾燥させる燃料（薪）として活用されていました。しかし、昭和59年に葉たばこ栽培が終了し、里山が利用されなくなり放置され、荒廃が進んでしまいました。その状況を打開するため、市民、行政、林業事業者等が一体となって、森林づくりや里山保全活動を進めているところです。

令和4年には、将来の森林のあるべき姿、持続可能な森林管理に向けて事業を整理するため、森林情報の見える化を行いました。その結果、管理されている森林は全体の約62%（人工林72%、広葉樹56%）と、森林整備は良く進んでいるとも言える一方で、森林の高齢化が進み、50年後には市内人工林の70%が101年生以上となることが判明しました。

- また、里山の広葉樹においては、
- 1 人工林と比べて整備が遅れていること
 - 2 里山活動団体は高齢化や資金不

足で継続が難しくなっていること
 3 コナラやクヌギが多くあるのに秦野産ホダ木が生産・販売されていないこと

さらには、ナラ枯れ被害、農作物の鳥獣被害、近年の自然災害の激甚化対策やゼロカーボンの推進など、多くの課題や必要な対応が浮き彫りとなってきました。

森林・里山の活用アクションプランの策定（広葉樹整備、木のある暮らし）

課題が明確になり、このままでは持続的な森林・里山の整備ができないと考え、さっそく森林ふれあい課内で話し合い、木を植えて・育てて・活用する、「植樹」「育樹」「活樹」の循環サイクルの中でも、特に「活樹」に注目した「木のある暮らしづくり事業」と「広葉樹林整備活用事業」を創設しました。

広葉樹林整備活用事業補助金
 秦野市森林組合が広葉樹林を皆伐し、学習機の天板や薪として木材利用しながら、里山団体と協働で管理し、20年後に安定して秦野産ホダ木を生産することを目的とした補助金です。

木のある暮らしづくり事業は、多くの方に生涯を通して木とふれあう機会をもってもらうため、さまざまな人生の節目で木工品を贈ったり、生活の中で利用する取組みです。

森林や里山の管理は、多くの人手や時間、経費がかかるものですが、まずは市民が木を身近に感じ、森林や里山の役割を知ること、意識を高めてもらうことが重要と考えます。

秦野の木に触れる具体的な取組みを紹介します。

【出生時】

初めての贈り物として、出生届を

森林・里山の活用アクションプラン



【婚姻時】

結婚した夫婦へのお祝い品として、婚姻届を提出された方に、市の花「ナデシコ」と「アジサイ」をデザインしたペアコースターをプレゼントしています。

【敬老祝い】

長年ご活躍されてきた感謝の意をこめて、90歳のご夫婦には「写真立て」を、101歳以上の方には毎年「干支の置物」をお贈りします。

【暮らし】

丹沢で育った秦野の木は、公共施設やトイレの構造材や内装材に利用されているほか、駅やハイキングコースなどに丸太イスやベンチを設置しています。

庁内連携、今後の進め方

木のある暮らしづくり事業は、既存の事業で配布している記念品や賞状などを木工製品に替えるなど、庁内横断的に連携して拡大させていきます。

この取組みによって、課題がすぐに解決することはありませんが、秦野市の森林・里山を市民が誇りに感じ、表丹沢の魅力を市内外に発信できるよう、継続して進めていきます。(秦野市森林ふれあい課)

提出された方にヒノキ玉をプレゼントしています。口に入らない大きさで、舐めても安心なヒノキ玉を握って遊んだり、お風呂に入れて香りを楽しんだりすることができます。

【幼少期】

幼少期から森林に親しみを感じ、豊かな心を育てることを目的とした「木育」の一環として、幼稚園や保育所等にヒノキの積み木を置いています。「もりりん※」や「おたから」が印字された積み木を見つける宝探し遊びもできるようになっています。



※秦野市くずはの家のマスコットキャラクター

【小学校】

一部の小学校で、学習机の天板に秦野産木材を使用しています。

里山で育ったクヌギやコナラや良い香りのするヒノキなど、日常生活の中でいろいろな樹種に触れることで、木を身近に感じてもらうことができます。

【中学校】

秦野の木を思い出の一つとして新たな人生を歩んでもらうために、義務教育を終える中学校の卒業生に、木の紙を使用した卒業証書を贈ります。

ほのかに香るヒノキの香りや木の質感など、自然の温かみや味わい深さが感じられます。



わが市わが町

海老名市

森林環境体験事業

海老名市は、神奈川県ほぼ中央に位置し、南北に長い地形で市域面積は約 26.59km²です。西は相模川を隔て厚木市、北は座間市、東は大和市及び綾瀬市、南は藤沢市及び寒川町と接し、約 14 万の人が暮らしています。

市内には 9 つの鉄道の駅があり、中でも鉄道 3 路線が結節する海老名駅は、都心へ一時間足らず、横浜中心部へは 30 分という大変至便な立地にあり、周辺各市ともバス路線が整備されていることから、通勤等を含め、周辺各市からも多くの人々が海老名駅を利用しています。

また、主要道路の整備により、海老名駅周辺道路のネットワーク化と市中心部の渋滞緩和を図り、アクセス性及び利便性を高めるとともに、市役所周辺地区の一体的なまちづくりを推進し、にぎわいと活力のある産業を生むまちづくりを進めています。

一方で、首都圏にありながら美しい田園風景や丹沢大山・富士山の眺望など、さまざまな恵みをもたらす豊かな自然も多く残されています。

そこで、本市ではこれらの自然環

境保全の一環として、森林環境譲与税を活用し、木材利用の普及啓発等を行うための 2 つの森林環境体験事業を実施しています。

1 つ目は、長野県須坂市の高原を訪問する森林環境啓発体験ツアーです。

本市との災害協定都市である須坂市では、豊かな森林環境を生かして様々な体験プログラムを行っています。水資源や森林環境保全についての意識の普及啓発を目的として、市立小学校の 1・2 年生を対象に森林環境啓発体験ツアーを実施しました。



森林環境啓発体験ツアーの様子

2 つ目は、新潟県新発田市が実施する防災キャンプへの参加です。

須坂市と同じく、本市との災害協定都市である新発田市が実施する防

災キャンプ事業では、災害発生時等において生き抜く防災行動力を身に付けるとともに、森林整備活動や森林環境を学ぶことができます。市立小学校の 4 年生を対象に実施しており、参加した児童は楽しみながら森林環境について学ぶことができました。



防災キャンプ

本市では、豊かな自然も多く残されていますが、森林環境に触れる機会はあまり多くありません。そこで、このように森林環境譲与税を活用し、小学校児童に対して森林環境に触れる機会を創出することで、未来に向けた木材利用の普及啓発が図られているものと考えます。

今後も森林環境譲与税等を活用しながら、自然環境の保全に向けて取り組んでまいります。(海老名市財務部企画財政課)



はじめに

二宮町は東京への通勤圏で湘南地域の最も西に位置する人口約2万7千人の小さな町です。南は相模湾に面し北に向かっては菜の花と富士山の眺望が楽しめる吾妻山をはじめとする小高い山（丘陵）が散在しています。町の中心部には大きくはありませんが葛川が流れている自然に恵まれた町です。

これらの山には昔、薪用に植林された広葉樹の林が多くありますが、薪用の伐採が行われなくなったことにより近年は荒廃が進み、老木も多くナラ枯れ被害も多数散見される状況にあります。

おいたち

当会は2001年に当時汚染の著しかった葛川の水質浄化（炭を使った）と荒廃した里山の整備及び木炭作りの活動により地域を活性化することを目的に設立されました。具体的には町の呼びかけで山林の多い二宮町北部一色地区の住民が中心となり当該地区に木炭窯を建設しました。その後竹炭窯も増設され山林や竹林から伐採した間伐材を利用して、木炭、木酢液、竹炭、竹酢液を作り販売を開始しました。伐採された山林は萌

芽更新や植林により再生を図ってきました。

特徴

第一は高齢化集団にもかかわらず活動日数が多いことです。

会発足時の会員はほとんどが二宮町の地元の人でしたが、現在では男性の多くは二宮町に移住してきたりタイアした人達です。ただ現役の人では町外在住の人も多く、遠くは横浜市の人も活躍中です。いずれも入会前には森林作業の経験がほとんど無い人達で構成されています。

現在会員数は39名（内女性11名、実質稼働者は約30名）平均年齢は67歳（30～90代）で日曜日以外もフルに活動できるコアメンバーの平均年齢は77歳です。多くのボランティア団体のご多分にもれず高齢化が進んでいます。一方、活動日は毎日曜日及び隔週の水曜日が基本ですが、臨時作業もあり、ここ3年の年平均の活動日数は124日、1回の平均参加人数は11人と高齢化集団にも関わらず非常に多くの人々が活動に参

加しています。これは若い人たちにとっては活動が多岐にわたり面白い事と飲み会をはじめとするお楽しみイベントが多く、高齢者にとっても健康寿命を延ばす絶好の場所だからだろうと思います。

第二は国、県、民間の森づくり活動に長年参加し、その助成のお陰で機材が充実していることです。森林づくり活動は人的なリソースだけではできません、チェーンソーや薪割機をはじめとする多くの機材が必要となります。当会では木炭、木酢液、竹炭、竹酢液、花炭等の販売による収入はありますが、高価な機材を取り揃えるには十分ではありませんでした。この為15年前から継続的に、国、県、民間会社の森林づくり活動に積極的に参加し機材購入に対する助成をうけてきました。そのお陰で機材が充実し円滑な作業ができる状況にあります。人的にも向上を図ってきたことにより現在森林インストラクター5名、チェーンソー技能者17名、刈払い機技能者13名と機材を有効に使える状況にあります。

活動内容

活動は主に四つに分類されます。第一は里山整備です。二宮町の山林、竹林の多くは私有地で間伐整備するためには地主の同意、理解が必須と



炭焼き窯全景

なります。当会ではナラやクヌギ等炭材になる硬木の伐採については間伐材をいただく代わりに無償で整備をすることを基本としています。その為多くの地主さんから大変喜ばれています。山道のある林ではベンチ、テーブル等を製作し休憩場所の設置も含めた散歩道整備も行っており市民の憩いの場作りも実施しています。

作業面では二宮の山林は急斜面や侵入竹が多く、伐採する前の作業区域整備、玉切り材の搬送路作りに多大の時間を要しています。伐採もかかり木となりそうなケースが多く、どうしたらうまく倒せるか頭の体操の連続です。間伐が難しい場合は夏場の除草作業は大変ですが皆伐し、後で植林を実施しています。



植樹作業

山からは玉切り材を軽トラで運搬しますが、軽トラまでの搬出路も急斜面が多い為すべて手搬送で行っています。力のいる仕事が多く若い人なしではできなくなりつつあります。

第二は木炭、竹炭の製造販売です。玉切り材は薪割機で適度な大きさに分割し窯に搬入します。火入れ開始から3～4日で所要温度まで上げた後、泥で窯を密封し、その後10日間自然冷却し、木炭の窯出しとなります。一窯分の必要炭材量は約2トンで収炭量は約300kg程度です。通常冬場を中心に年間10回の炭焼

きを行っています。木炭はキャンプ場や町の観光協会等に販売していますが高品質のわりに価格が安い為か好評で品切れ状態が続いています。



木炭窯火入れ作業

第三は町との連携事業です。町には里山づくり推進協議会という組織があり、当会はその主力メンバーです。その活動の一つとして幼稚園児を対象とした田植えと稲刈り体験イベントを毎年行っています。当会はイベント時の手伝いはもちろんのこと田植え前の土起こしから始まって、代掻き、田植えの後の水量管理、水草取り、脱穀までの一連の作業、管理を行っています。また、冬季には町主催で町民を対象に椎茸の植菌教室を行っていますが、そこで使用される楢木の山からの切出し作業と植菌作業の指導もあわせて行っています。



田植えイベント

第四は農家への支援活動です。二宮町でも農業従事者の高齢化、後継者不足等の問題は深刻で、耕作放棄

地が増えています。拠点の近くにも原野化した元柿畑があり、美観をそこねている事から雑木伐採、草刈り等整備を行い、柿畑として再生させました。その後も里山風景維持の為、継続的に草刈りを実施しています。他にもミカン収穫の手伝いや八重桜畑、銀杏畑の管理を依頼され定期的に草刈り、剪定、施肥、収穫を行っています。その代償として畑の収穫物をいただき加工・販売していますが、これらは季節を感じる楽しいイベントでもあり、今ではこれが活動をささえる貴重な収入源となっています。また援農活動は資金面だけでなく、地域住民との交流促進及びそれに伴う当会への理解、協力を得る上で重要な事業の一つにもなっています。



八重桜摘み作業

おわりに

当会はこれまで、ほぼ順調に活動を進めることができましたが、昨年に活動拠点の立ち退きを迫られる大きな問題に直面しました。炭焼き活動を断念する一歩手前まで追い込まれましたが、会員の存続への熱意と地域の方の協力、励ましで存続を決定しその移転作業に半年以上奮闘してきました。現在移転作業も山場を越え新年度からは新拠点での本格的な活動が始まります。これからいろいろな問題が出るかもしれませんが楽しく長く活動を続けたいと考えています。(2025年2月 石川)

事務局便り INFOMATION

1 2024 森林ウォークの開催

令和6年11月24日、秦野市の森林セラピーロード「表丹沢野外活動センター・葛葉の泉コース」において、31名の参加者を得て森林セラピーを体験しました。参加者は、6名のセラピーガイドさんの案内で、木々の香りに包まれる葛葉川沿いのコースをゆっくりと3時間ほど散策しました。

当日は、抜けるような青空が広がり、展望台からは、秦野盆地や相模湾の眺望に日常の喧噪を忘れ、ひとときの安らぎを味わいました。また、表丹沢菩提里山づくりの会のご厚意により、菩提で栽培・収穫された焼き芋やその場で焙煎したほうじ茶が振舞われ、セラピーを終えた参加者は心地よいかからだの疲れにほっと一息。菩提の森の魅力を満喫する一日となりました。

今後の森林ウォークも「森林サービス産業」としての森林セラピーを取り入れ、森林のもつ様々な価値を広く県民に理解してもらえるよう企画していきます。



菩提の森について説明を受ける参加者

2 かながわ市町村林政サポートセンターによる研修会の開催

(1) 地域材を利用した木造公共施設視察研修

令和6年11月20日、山北町で建設中の旧山北体育館代替施設の視察研修を開催しました。参加者は58名。

午前中は会議室で講義を行いました。神奈川県森林再生課担当者から県の木材関連施策の説明、山北町教育委員会担当者から発注の苦労話をしていただいた後、この

施設的设计・監理をしている赤岩建築士から、設計の工夫や木材調達と建築工事を分けた材工分離方式による施工等の話をいただきました。

午後は現地で施工中の施設を見学しました。虫害材などの使用状況や、正角材を利用した壁柱や重ね梁などの施工の様子を見て、本県でも地域材を用いた建築物が可能であることを改めて実感できた研修になりました。



赤岩建築士の講義

(2) 森林経営計画研修

令和6年12月3日、足柄上合同庁舎において森林経営計画研修を開催しました。参加者は山付きの市町村や県職員で29名。この研修は、以前からあった市町村からの要望を受けて開催したものです。

神奈川県森林再生課、及び県央地域県政総合センター森林計画担当者より、森林計画制度、森林経営計画制度、認定のやりかた、森林システム、等の講義を行いました。最後に行った実例を用いた演習により、全体の理解度もアップしたと思います。



(株)市川屋製材工場「フォレスト津久井」で製材見学

(3) 地域材活用視察研修～木が生まれ変わる現場へ～

令和6年12月5日にマイクロバス2台を仕立てて、視察研修を行いました。参加者は38名。

神奈川県森林組合連合会津久井貯木場で山から運搬された原木が極積（はいづみ）されている状況を見た後、(株)市川屋製材工場「フォレスト津久井」で、運び込まれた丸太が製材され、乾燥後、カンナ仕上げされて製材品

になる様子を視察しました。

午後は（一社）さがみ湖 森・モノづくり研究所（以後 MORIMO）の青山倉庫で広葉樹材を製材、乾燥している様子を視察した後、青根の(有)サトウ草木で自動薪割機を使って薪を生産する実演を視察し、最後に MORIMO で机や木工品の製作の説明を受けました。原木から製材品が生産される順番で視察を行ったので、木が生まれ変わる様子が良くわかりました。



(有)サトウ草木で薪生産見学

(4) 里山管理研修～里山再生 身近な森の有効活用～

令和7年1月17日、横浜情文ホールにおいて里山管理研修を開催しました。参加者は82名。初めに基調講演「里山でも稼ぐ 里山の魅力」という題名で、元栃木県環境森林部参事 津布久隆氏から、実際に氏が行っている里山から生産される枝物などの出荷の様子や里山広葉樹林の整備の内容などを紹介していただきました。枝物の収穫から製品として生産するまでの工程や具体的な取引価格まで紹介していただき、里山で稼ぐ大変さや可能性について理解することができました。

休憩をはさんで、MORIMO の淵上氏より、活動の理念やこれまでの取組、県央地域県政総合センター森林保全課安居院副技幹より県の補助金による広葉樹材活用の支援、(有)サトウ草木高城氏により薪生産における様々な工夫について、それぞれ発表いただきました。具体的な取組の紹介が多かったので、参加者にとっても参考となる事例が多く、自分たちの活動と重ね合わせて、これから里山をどう管理していけばいいか、考えを深めることができたのではないかと思います。



順番に津布久氏、淵上氏、安居院氏、高城氏

3 表紙写真解説

「木のぬくもりのある昇降口、げた箱も地域材で（南足柄市立向田小学校）」

南足柄市は林業の活性化をめざして、地域材を活用した公共施設の木質化を進めています。

今年度は南足柄小学校1カ所、向田（むかいだ）小学校2カ所の昇降口の木質化を行いました。

事前に行ったワークショップやアンケートなどにより子どもたちの意見も取り入れて、柱や天井などもカラフルなデザインになっています。げた箱は取り外し可能で、児童数に応じた対応が可能となっています。

また、工事に伴い、市内小学生に向けた「森ツアー」「製材所見学」「げた箱の角を丸める体験作業」等、子どもたちの地域材への関心を高める木育事業も進めています。

市内5つの小学校の昇降口は順次木質化する予定で、市内の全ての小学生は木のぬくもりを感じながら一日の始まりを迎えられるようになります。



取り外して移動可能なげた箱

広報誌 **緑の斜面 No. 85** 令和7年3月31日発行

編集・発行 **神奈川県森林協会**

住所 〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号 サンシャインビル6階604号

電話・FAX **046-240-0500**

